

トリからのメッセージ ⑩

おかげさまで愛鳥キャンペーン10年

サントリーが、ウスキーづくり50年を記念し、愛鳥の心を通じて自然保護を考える…愛鳥キャンペーンをスタートさせたのは昭和48年のことです。それから10年、私たちは各工場のサンチュリーリー造成をはじめ、野鳥保護の催しものへの参加や、関連団体への後援・協賛・チャリティ・新聞広告によるアピールなど、さまざまに展開してまいりました。この間、皆さまからあたかご支援や貢献などございました。

私たちはこれからも、「トリの生命をまること」は人自身をもること、「トリの命に自然保護区を」*(Today Birds, Tomorrow)*

Menuをテーマに、ひとつひとつ、キャンペーンのねうをまいりきたいと考えています。豊かな環境のなかで、トリもとも安心して暮らせる日が来るまで…。

この広告と野鳥保護との関心は?

ところで新聞社では、世論がどうなっているか、あるいは新聞広告がどう受けられているかなど、一般の人や読者を対象に調査をします。この「愛鳥キャンペーン」新聞広告については、いままでに3社が、計8回の調査をしました。今回ご紹介するのは、東京都に住む10歳以上男女500人の方に、この10年間に4回(55%中)、面接によってお答えいただいたので、べく2,000人の方々の「声」です。

■このキャンペーン広告をご存知ですか?

10人中1人以上の人には知られており、この種の調査の中で最も高い割合です。「知っている人」のほとんどは、広告を見なくては知っている人で、とくに「野鳥に興味のある人」だけに限れば、2人に1人以上の割合で知られています。

■このキャンペーンをサントリーガが行なうことについて各回、ほとんど10人中8人が「よいこと」と考えており、「野鳥に興味がある人」では10人中9人と、高い評価をいただいています。

■この広告が続くことに驚きましたか?

10人中1人の方が「今後見たい」と答えています。

■野鳥保護に関心がありますか?

10人中1人がある。野鳥を保護するのに何かをしたことがある人は10人中4人、今後何かをやりたい人は10人中3人です。

■野鳥に関してやってみたいことありますか?

家に野鳥をよんでみたい46.8%、野鳥を見に行きたく45.2%、野鳥に対する知識をもっと31%、自然破壊の監視21.4%などが多く見られました。

……ちなみに、東京都の16~59歳の人口は約755万人(昭和55年国勢調査)ですから、上記この広告を知っている人は337万人、「野鳥保護」に関心がある人は528万人、「何かやりたい」226万人強、という推計ができます。また、この調査で、愛鳥キャンペーン広告が掲載された新聞(10紙)が香港でされている家庭は0.3%を越すもの場合を除いて延べ香港世帯数といつても1回あたり635万世帯にのぼっていることがわかりました。全国世帯数は約3601万ですから、大勢の方々の目にふれることになります。

キビタキ(10年間で減ったトリ)

サシコウチャウ(10年間で減ったトリ)

ノスリ(10年間で減ったトリ)

ヒヨドリ(10年間で増えたトリ)

セシナガ(10年間で増えたトリ)

ヒヨドリ(10年間で増えたトリ)

ヒヨドリ(10年間で増えたトリ)